

経過記録

5/6 7:40 継続委

1. 7:00頃

6:00-7:30  
 会

	10h ~ 12h	2h ~ 5h	5:30 ~ 6:00	9:30
7	湯川, 田中 座長 三村 (小川) 野上	佐久向, 野上 久野 (高木)	記者 会見	Special I topics
8	7:00頃 三宅 (野上) 朝永 (朝永)	久野, 坂田 朝永 (高木)	会見	S.I. II
9	7:30 全体討論 朝永 (事務局)	2:00 3:30 4:15 久野, 坂田, 朝永 久野, 坂田, 朝永	4:15 5:00 久野, 坂田, 朝永	講演会

「学問のあり方と研究者の社会的責任」

田中: 戦後からの世界状況における戦略的意義 軍事的に見た科学の政策

佐久向, 野上: 中国の問題

江口: 世界史的意味の科学, 科学

久野, 坂田: 科学者の社会的責任  
 理想と実践 → 科学のあり方

7:30頃 8日頃

合同記者会見 新元島小ホール

湯川 20 朝永 40 三村 40  
 坂田 10 久野 10 朝永 10

NHK 朝永 (5:00 ~ 7:00)

毎日 湯川, 久野 討論 8:00 以後

中国新聞 坂田

5/15 P.M. 6時 — 継続委 at 学芸会館

合計 新書 87,000 + 10,000 (科学者研究報告会)

c092-009-015

フューチャの世帯書

田中: ~~地域的安全保障~~ ~~地球的安全保障~~  
と封じ込め政策との関連性

アジアの中の日本

佐久間: ~~アジアにおける戦争と平和の問題~~  
野上: ~~アジア科学者会議の可能性~~ (一つの思考実験)

江口: ~~世界史の中の日本~~

科学者の社会的責任

久野: (その指針の精査) (思惟と実践) ~~職業倫理と市民倫理~~

坂田: ~~日本における科学者の組織の問題~~

記録: ~~一応テープをとる~~

報告: ~~第4編を作り、総括巻に目を通してもらって、事務局の名で出す~~

谷川: ヒロシマの映画を早く目の見ると

朝臣: 長崎の映画もどきにする。——造船大学の人が中心

自衛隊: 二次防衛計画 三次はもう少し分るものがある、

"二次" "  
↓  
校の部にまわす

朝臣: 上野の国山氏、江口氏と座談会をした。バグダッドの芥川で

イデオロギーのちがう人が話せるか、の問題

これについての意見をまとめる。——夜分

江口のことはともに入ります

武谷: 中国問題について、中ロとアフリカの戦争勃発に及ぶという事実の上  
に立つて議論してほしい。

Special Topics

- 原爆映画
- 中口の核兵器観
- 原子力潜水艦
- 自衛隊

5/7. 9:30 座長 三村 (小川)

湯川 挨拶

- i) ~~ノー~~ 会合の合併のこと
- ii) 今後のこと。パグ、ダートマス
- iii) キューバ

~~以上~~ 今回のテーマ

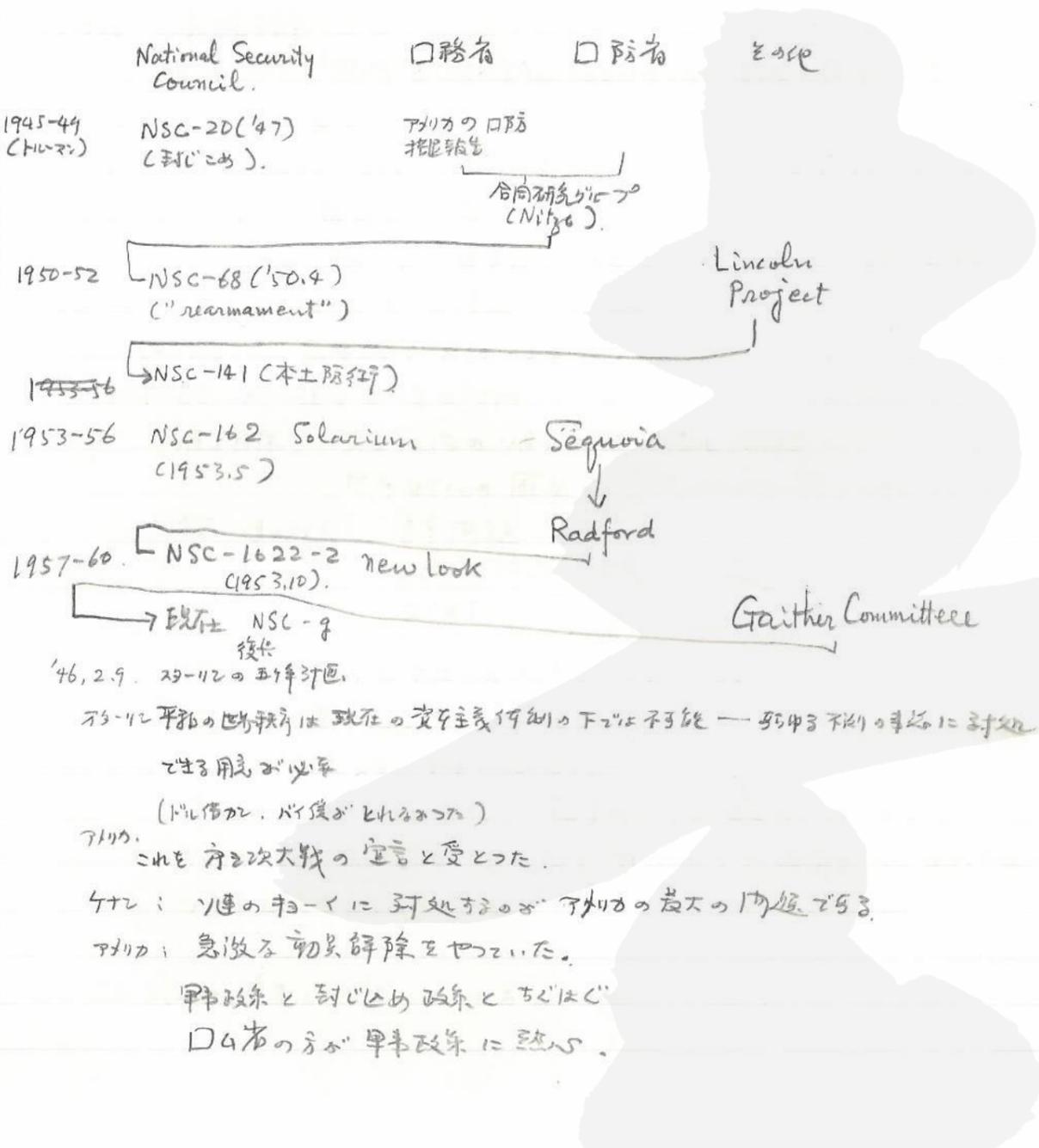
世間では限られた少数がエリート意識をやっているという評論があるが、  
もともと限られたメンバーの中だけでやることがよく開放的であるものな、  
参加者も半分以上前国と代っている。  
場所としては適当である。右の方にお祈りをいただいた。

三村

広島所へ会の会場のマセージ披露  
東京教員大自治会より電報

②中、

- 47年-1952年のアメリカの戦略的予測。対日関係が「行まずとこまで」行った。この「将来消滅する国を命」。
- 今後の経緯。



□4省 大規模常備軍をいつも持つことが必要

□4省の専断はるるるを裏返しなつた。本

核兵器も持ちこたさずして 大規模常備軍は改定なつた

1949. ソ連 原爆の実験、中口の出現

'50以後 水爆競争

1946に AECで水爆を作るといふ方針に定めた。その時の経緯は 原爆の  
改良に主眼をあく。

リヒエロール：アメリカの戦略防衛の全般的検討をして その上で水爆を作る。

トルマニ 水爆の製造命令と共に

アメリカの外交政策の全般的再検討を □4, □防合同でせよ

合同研究グループの洋名： Nitzze. (アフリカ系)

その経緯から 再準備 (NSC-68)

NSC-68 は ソ連をどう見ているか。

ソ連の目的、東欧圏内のソ連の地位の強化、経路

世界への 膨張

東西 力の弱さ、軍事問題

上層階級と大衆との Gap

工業国との gap

1954年には アメリカ本土への攻撃が可能になる

全米として ソ連の恐ろしさが指す事された。

アメリカが何もしてないといはれる...

予防措置も取らぬ... 西半球に閉鎖的わけにもある...

アメリカ及び同盟国がソ連に対し力のバランスで 全防ライン以外の道で

ソ連の目的を抑える。

この状況が今まで続いている。

\$350億/y が 1170'35 との 算定  
当時の国防予算は \$130億/y ) 備えがある。

一般には 予算が足りなかった、政治的には NSC-68 は不可能だった。  
ところが 朝鮮戦争が起きた。

これは 結果としてアメリカの 軍備が 政治的に 可能になった。  
1) 5172 が 中央の年に入るのを くい止められた。  
軍備が増えた。

Lincoln Proj: M.I.T. の Lab. — 防衛の技術的 <sup>72 討</sup> 検討 —> NSC 141  
NSC-141 は 32'には 実施できず —> アイク

アイク:

予算の均等化

共産主義の脅威は 経済面と 軍事面とを

強力な 経済と 強力な 軍備力の バランスが 一人 共産主義と それを 克服に  
維持して 行かねばならない。 長期的観点に 基づいて 毎年の 軍事政策を 立てる  
必要がある。

スーパードール 危機は 核兵器と 見て、 軍備を 有りり 毎年の 経済を とり  
ながら 新しい 軍事政策 — new look

ソの 水バク 以上の 状態に 対処する — Op. Solarium ) NSC-162  
国防省で これに 対する 軍事面 — Sequoia

内容 { 封じ込め、  
戦略核兵器に 大きく 依存、  
アメリカ 本土 防衛、  
Seg. { 防衛  
戦略核兵器  
海外 駐在 軍の一部 引揚げ  
同盟国の 地上 兵力に 頼る。  
(アメリカは 海軍)

予算面から 考え、Radford が 再検討。  
全面戦争が 核兵器を 用いて 行われる 可能性を 排除した。  
(or 大規模 局地的 戦争)

アイク ~~核兵器~~ 核兵器が 一発 核兵器 — new look.

ICBM 以後 ( '57 - ICBM 登場 )

Ike の見解

- i) 財政 <sup>削減</sup> 方針は 42 年
- ii) 常時即応兵力中心 — 30 億円の縮小
- iii) 核報復能力 — 直接攻撃を抑制するには足るものでよい。  
→ 対都市抑止戦略 — ミサイルは少くとも — 多量に踏える。  
→ 対兵力 — 数多く、急に大きくなり得る。

限定戦争の重要性 — 対力は多量に重点を置かぬ。

Ike の下では new look は大きな変更はなかった。

Graithen Committee . 本土防衛

報告は発表されなかった — アメリカにとつて防衛はつらしい。

ICBM 以後の new look 戦略を批判したことに係る。

- i) 弾道ミサイルでの 1 連の侵襲に打撃することは難しい。
  - ii) ソの先制攻撃 100% と併せ考慮すると ~~戦争~~ <sup>ソは</sup>被害を許さざるを得ない。
  - iii) <sup>そのため</sup> 2nd strike を担保する必要がある。
- etc.

(マクマラス Graithen Report にて 2211 年ころに実行して 11 年)

Ike : この中で i) 国防省の改組 — 指針を訂正はつた。

ii) 抑止能力回復 — 戦略空军の分岐 etc.

ICBM, IRBM の 製造促進

局地戦に對する 通常兵力の削減 は やる ことが なかった。

ミサイルには力を入れた — <sup>42 年</sup> <sup>の</sup> ミサイル 増強

JFK : — 封じ込めの 軍事面 は 来る ところ まで 来た —

- i) Nato . (マクマラス 報告) target system の一元化の重要性。  
統合された 核戦略。

10 個単位の核戦略は 効率が悪い。

~~東~~ 欧州の場合には 正に 核兵器の使用を必要  
ならしめる 人は 多く いる。

~~欧州では~~ ミサイル。ロシアは前の計画で充分

全般目的部隊。核兵器を使わない局地戦力に力を入れている。

秒時間か大切。核動力。

欧州以外では現在のど充分。欧州は止めておきたい。

- 同盟国の自力で準備を待たせる
- 全般目的部隊、空輸部隊、海上兵力に力を入れている。
- 全面的核戦争はまらっていない。

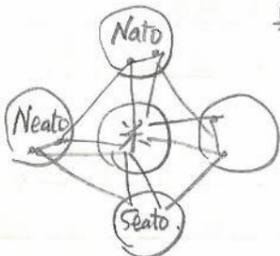
予算の枠はほぼはじけた。(トルコ、アフリカの差)

国防の百貨店。

体制 - 11/22 再編

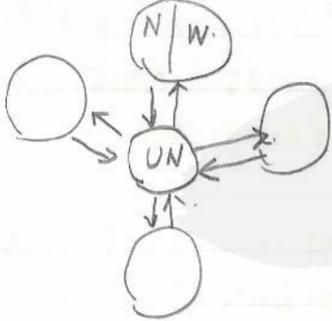
問題

- 5/ 自衛隊
- i) 日連憲章 52 集団安全保障



集団安全保障地域  
 基地が通信網でつながれる。一元化軍略体制。  
 WWHCCS (World-Wide Military Command and Control System)  
 コーバで何かと日本の自衛隊空軍が41個体制をとる。  
 この網がアメリカ軍事的に見て

これをUN中心で見ると



核のつながりがあるといける。地域と問題として見る

— 日連憲章 —

アメリカから見れば全部一つ — 空に問題がある。

(日連が弱いから)



'65年 UNの20周年。10年毎に日連憲章再検討の全作会議が83  
 90年

51, 52条は冷戦と軍備縮小を作るために使われている。  
これをこわすことは 対立的な政策をこわすことによる。 — 日連中心で考える —

### 核兵器の問題

#### 戦争の可分性と不可分性

例: 戦争の可分性と不可分性に関する問題 (船の隔離)

不可分性だけが強調されるとこまる。 — 飛火をくい止める努力

ヨーロッパでは裁断の兵器が がん細胞のように振っている

1957年以降の兵器が採用された。 — 誤った決定だったという声がある (欧州人に)

軍縮が 縮小について 核兵器をなくして戦争を可能にする。

アメリカは 縮小をすすめている。 — 通常兵力を拡大してくれ。

(兵力の引き離し)

核兵器を使えば兵隊を引き離す

二一の経験から 米ソは 関心が深い

ヨーロッパの慢性状態は 誰も存もあらず。 — 危険である。

#### ②

戦争は可分であるべきではない。  
平和は日連を中心として 不可分であるべきではない。

日連中心に考える態度を深めなければならぬ。

日連の活動力を核時代にもうように変える必要がある。

— 分割などでは争えない現状 —

#### 質問

朝永: 軍縮は縮小が 222 に実施するべきである。という意見か。

伊: 現にある問題は 放っておけない。ということだ。

軍縮について マクマラスは disarmament のつらみは念頭にある。

軍縮の第一段階では 戦略と軍縮との関係は 非常に密接

戦略核兵器 — 24年力を増す — 戦略にはミサイルは海をけ

論じられるというおかしな政策にはならない。

田村

ヨーロッパ: disengagement, 通常兵力を減少。は今の欧州ではソ連と組織が  
ちがう。Natoは核兵器が統一されている。これに似た形(通常兵力  
を増強)に存在を認めし易い。

朝永、早急の統一段階でも細いことを考える必要がある。  
中心で考えるべきではない。

故、限定戦争を合理化する危険性があることを注意しなくてはならない。  
朝永、封じ込め、は戦争を不可分にする危険性をもつている。  
毎書。

5/7

2.00. アジアの中の日本

佐々 久野

佐久間. アジアにおける戦争と平和の内証

アジアの内証は平和の内証に相当する. 平和的 経済的 軍事的 条件を考慮しなければならない.  
主として東化, 東南, アジア, 南アジア. 1947. 1948. 1949.

戦後の動きを測る

Table 1. 戦後の動き. \* 以外には戦後の新地図 (これは予約されていた)

- ① \* 一貫して戦後にはいる (不連続) 口がある. 特に韓国. 中国. 日本. 日本は軍事政権.  
\* 西歐的民主主義はどの口にも成り立っていない

- ② 経済的 条件. 1947年 東南アジア - II (1人当り 1,000 - 1,500 円)  
ヨーロッパ 2,000円 3,100円. アジア 242円. — 工業化の度が進んでいる.  
(III). 上昇の度合いも悪い.

口民所得. 上昇の速いもの 北米, 中国, 日本. (IV-1)

軍事同盟口と経済同盟口

- ③ 社会的 側面

民族意識. と 向上の要求. 向上の可能性の発見. — 異なる条件をもちいる  
植民地時代からの切替えで 困難の原因にもなる

- ④ ここに 報告.

アジアの立場をみた アジアの特色

i) アジア諸国は 自らの運命を改定する chance をもったため  
ここに あり

ii) ここを 打開する 可能性の 自覚

iii) 社会 構造 が 変った. 家族制度. 土地の所有の 変化  
それらから 社会的 矛盾 が 起っている. それを 解決する いろいろの 難しい  
問題がある.

iv) 強い 民族 意識.

v) 中立 主義.

vi) 資源 輸送が 経済的に 外口 に 依存 している.

外口への援助 (V)

援助の受け手 (西側) と経済状況との関係

西側へ向けられているのは 政治的平等

東側へ向けられているのは 国民所得と上昇率が高い

○ 対アジアの援助 (VI)

戦後は 対外援助 2% 現在 0.2% (国民所得に對し)

経済援助は減少し 軍事援助は増大 現在ほぼ同額

アジアの援助を与える地域が 変化して来た

ヨーロッパより 結果が 多くなった

58年まで 650億ドルの援助

1950以後は 経済援助と 文化援助の中に 相当の 軍事援助がある

軟物資による <sup>例. 米</sup> 非軍事援助 4.5億ドル / 31億ドル

(軟物資による防共支持)

○ 援助を出すアジアの考え

目的: 報告

i) アジアの 安全確保 - 必要なら 強い同盟国を作る

ii) 同盟国を 強化する

iii) アジアの 防共の 削減

iv) 中国の 侵略を 阻止し、ソ連に 失敗した 戦略的に 対処する

v) 東南アジアの 生活水準を 向上し 英米連邦への 力を 与える

効果

韓国 '52~'58 10億17億、有効に 使われた 百万五者、汚職

台湾 社会的 政治的 経済的 状況は 改善された  
インフレ

ベトナム 非同盟主義国を 強化する 目的は 達成され  
ていない

なぜ失敗したか

(外報). ヨーロッパ+中東, で成功したのを同じ仮設の下に検討せよ"に適用した。  
受検口と口内政治の関係を理解している。

目的に対する批判.

低南ハツ口の生活水準を上げることは必ずしも地主を防止することには至らない。  
一般的にはすでに高い水準に達していること" 地主が"発展している(食困  
× 地主へのミカがあるというは誤り)。

工業化により生活様式が変化する。その中で"地主が"ミカをもつてくる。  
交替的な政治態度を伴う形で援助すること"に問題がある。

○ アジアの軍事態勢 (VII)

軍事態勢 (VIII). 南米が盛れている口での軍事態勢は南米が盛れている口と  
同じに盛れている。

○ アフリカの

原野 30

ボリス 9 — 大部分は大西洋。

計画(63年) 50

ボリス 18 — 増えた9は大太平洋基地。

○ アジアの軍備増強の

アフリカの軍事態勢

○ アフリカの軍事態勢は増えている。 — その増強はアジア太平洋の強化に大きく貢献して  
いる。  
対外援助の軍事援助は減ったが軍事態勢は強化されている。

アメリカと中国との関係。

中国の問題。

中国の現在までの発展。

1921 中共党の結成。 国民党と提携。 第一次国共合作 ('24)

1925~27 国民党と共産党に 第一次国内革命戦争 (上海の外。 農民組合)

1925 孫文死。 国民党内部の左右。

反共クーデター (蔣介石)。 国民党政府 ('27)

1927~30 第一次内戦

1927以後 第一次内戦 中共は農村に力を入れた。右翼国民党の批判、赤軍の建設、農村での農民の蜂起による土地解放（~'34年まで）

~'34 解放戦

'34 長征（解軍に敗れる）

1935 日中の戦い、対日統一戦線

'37 第二次内戦

1949 中華人民共和国内戦

★ 大衆への信託が特色（解放戦 建設）

★ 地主と富農から土地をとり農民に与える土地法、裁判）<sup>1947年</sup>

★ 右翼国民党（無産階級と農民との協力）

左翼国民党（~~農民~~ 外資主義） } 批判を帯びた  
連合も、戦争もする。

'49 ~ 現在

第一期（'49~'52）回復期、土地改革、<sup>（1952年）</sup>中小企業の基盤

第二期（'53~'57）第二次五年計画

第三期（'58~'62）総路線、人民公社、大躍進

'58~'59 の飢饉は甚しい、<sup>1958年</sup>工業

'60~'61 の自然大障害

中米の関係

内戦時代は区別なし、大平定戦後は国民党に月20億の援助を与える

国民党は敗れる

その後しばらくは特になし（<sup>1950年</sup>タシ 台湾は中米を承認する）

朝鮮戦争、<sup>1951年</sup>420億、<sup>1954年</sup>台湾との防衛費用

中米例：米帝主義打倒が最大のスローガン

朝鮮戦争、台湾の占領、インド

中米の間に陸路で中米を侵略しようとしている

- ① 平和共存に対する中口の考え
- ② 核兵器に " " " " " "

①について: 平和五原則 ('54)

ババの会評 ('55) - 平和十原則

アメリカと話し合ふ用意がある - カルソンの大佐級会談

トリアッパの批判に対する見解

民族の紛争を除外した平和は考えられる。しかし戦争は不可避でない。  
話し合ふことと各種形態による戦争を区別する。

戦争が起り終る → 社会を作るのでなければ "平和" と云えない。

- ② Special topics に当たる。

トリアッパ -----

ED32の正否。核兵器使用を批判する声明を出している。

核兵器の全面禁止。しかし核兵器は ~~大衆を滅ぼすことである~~ 戦争を終結する  
のに役に立たない。

~~核兵器禁止~~

中口が好戦的であり核兵器を軽視しているという考え方は正当ではないと考えられる。

三村

原爆を落した日米と落したアメリカと仲がよいのは中口の考えとは違う。

一発や二発で落したのが孤立すると考えられる。

戦争はなくなると思ふ。核をなくすにはどうするか、が問題。

田中

本格的に核を使ったら孤立どころの問題である。使ってしまったら、

佐分利

使おうとすれば孤立するというのがねーハ。

坂田

日米でも政府と人民との間には分断はある。

佐分利

日米と西独は似ているが、西独では原水禁絶は非合法でない。

日米は政府と誰か認めざるを得ない。その点ではアメリカは孤立に  
いると云えるのではないかと。

三村

局部戦に使われることはあるだろう。使おうとすれば平和に不利になることは  
わかっている。

核戦争をどうに防ごうか内閣内

三宅：中口の核廃止案

豊田：渡辺悠氏：人間を尊重しなければならぬ。

休憩。

4.00 再開

中印口境内閣

朝比：口内に入っていることにはどうにかする

久野：バレー会議に集った口々は解決に努力すべきだ。

田中：A14についてアメリカは核戦争の経験にると云っている。そのために兵器をnoteにしている。

朝比：

田中：どちらも核兵器を使わない institutional arrangement を作る事が大切だとアメリカも云っている。

朝比：ア、ソ、英、他の諸々の口の内閣を忘れて考えているのではないか。中口はそういう点にも交差するのだ。

田中：ア、ソ、英は中口の内閣、ヨーロッパは例えは西ドイツが核兵器を持つと云うことになる。

江口：中口が核兵器を持つた時に中口が何と云うか — 中国と云うか、アメリカに於いての意見の変化はどうか。

坂田：中口は力学的に平衡が保たれているという考え方をとっている。と云う。意見の変化はないと云う。

田中：水爆、ICBM 以後 東口が西口を圧するということを強く云い出した。やはりソ連の核兵器が自衛を守るという意識があるのではないか。

久野：ソ連の云い方がアメリカにも判る表現をとって来ている。中口の場合はどの論理空間で云われているかをよく考えておかないと判らない。核兵器は云うと判らない。

江口：~~歴史的な発言が政治の責任を担うべきは~~云える。云うことになる。

野上氏

京都大学基礎物理学研究所

中口の科学技術政策

1) 4つの基本方針

i) 社会主義建設のための仕事

ii) 全面的な計画

iii) オルタナティブの拒否 勇敢に<sup>考え</sup>、勇敢に発言し、勇敢に作業する精神

iv) 総路線 (Mass line)

この方針は '58~67の科学技術行政12年計画に見られる

総路線という方針は中口の特色 (3次計画を自主的に決め実行) (科学の発展に運動が盛) (自信を持つ)

2) 中口科学者のあふんだ環境

○ 科学者の本務遂行上の根本的矛盾はない (科学、技術政策の合理性)

○ 高い社会的地位

○ 組織活動、集団作業の発達、口民大衆との接触

○ アメリカによる封鎖による緊迫感、口民的連帯感

○ 工業水準の高度不足による研究条件の欠陥

○ 専門家の不足に伴う諸困難 —— 統計

○ 外国との科学交流の不足

3) 日本科学者の場合 (中口と比較して)

○ 専門研究の良好な条件 科学者の高い水準

○ アメリカの<sup>中口</sup>封鎖の前進基地としての性格

○ 科学政策における全面的計画の欠陥 —— 明治以後の科学政策の連続性  
が破れている?

○ 強い専門家意識 政治からの中立の尊厳、科学の中立性

○ 高度の口際性、口民からの遊離

野上. アジア科学者会議の~~提案~~<sup>可能性</sup> — 一つの思考実験  
アジアの科学者の会議を設案に見てその内面を考察する。  
→ AA会議の資料は乏しく、科学者についてのデータは不足する。  
この会議で、日中科学者が何を話したか、どんな話ができるか、  
科学者とはむづかしい場の中で話さなければならない人種であるとされている。  
この科学者が何人といふか。

中日の科学者の発表状況とその環境

1), 2), 3)

4) アジア科学者会議の可能性

- 情報の正確な把握と口内へのアピール
- 科学者独自の立場からのアジア諸国への建設援助
  - i) 専門家の枠を設ける。話し合い。
  - ii) 相互認識 — 連帯感の育成

2) をソ連と比べると。

ソ連は革命前にかなり高度の科学活動があった。  
最近ではソ連の現在の Leaders は革命后すでに10代に留学している。ソ連側  
での働きかけがあった。 — 中日との差

(注) 大陸とは独立性より以前のものを、)

(Nationalism 等)

日本の科学者の環境は、バグ等には有利である。真に熱心なついでに  
ないことを客観的に考えるのは有利。

次にバグで考えている世界の中心部について、日本の科学者が科学者で  
あるために例えは中日の科学者と contact できる channel を作るか。  
1) どちらの科学者 (日本のバグの人々) も専門家の枠を設け  
出ているという点で一致したところがある。

科学がどの程度まであるのか、その程度では理解の可能性は高くなると思  
し、加えて、

アフリカ作家会議はどの程度あるか、

2nd A.A.作家会議 (at Cairo), 分科会、申し合わせ、宣言、

何かが知られたら、1) 民ソラの拡大と世界平和の道のため 南口主

権民地主義の斗争への作家の役割

2) 連帯性のため、ホシヤク、

3) 文明の伝播、出版手段、

4)。

自身は少し特別な条件に与えられる、形ではあるが、

互にお互いの立場を出し合って認識し合う、— 客観状況に言及する  
ことを避ける、互に評価する、

湯川： 例えが、科学者の会議はできるか、— 内容は少いのではないかと、

坂田： これはよいと思ふ、物上での存在を認めておけば、日中側と南口側  
の差についての認識がなければならぬ。やはりアフリカの歴史が  
米中の不平等な状況に基くという認識が、日中側には欠けている  
のではないかと、向うが「米南口主権」を「55か」に「10か」と言っても  
合わない。

三宅： 台湾と本土との交流が禁止されていることから考えれば、われわれと異なり  
考えを述べているのではないかと、

坂田： アメリカとの話し合い（中口）の受け持にるのは次の段階、

5/7

7:30 Special Topics.

豊田:

1) 原爆映画の公開

朝日: 仁科財団の運営委の話 i) コピーを仁科財団に保存した ii) 整理し説明

を7月1日。一記憶が読つて3日以内。という申し入れをした。

答えておられる。返している。

現物: 日映新社

しる理由: 今ではアメリカに対する気がね。

今はこれでまわっている。借している。独占したい。

所有者との交渉。所有権はわかってる。

コピーをくれるのは金の問題かどうか。

やはり圧力があるのではない。(日本政府が圧力をかけている)

たけし実情を調べ、場合によってはナバーの運営委員の名前を借りる。

まず調べるべきか先決な。金もあらかんじい。

長崎の方と連絡をとつてやる。田中氏。

長崎の方にもある。

2) 自衛隊の現状

二次防衛計画完了

防衛費 1.7% 4口所

現在二次計画が進行中

6 三次計画が議論されている。2%にあげたい。

(防衛年鑑11号) ~~航空母艦を4隻~~ 2%をこえる。

予算が使いきれない現状が近代化。

対潜水艦が強調されている。海上警戒。飛行機に誘導或

防空体制。

ホマー部隊を編成する。

ネーバの略には警戒体制に入った。アメリカの指揮官に握られている

自衛隊の上級幹部は後で知った。

自衛隊の指揮系統を国民に知らせる必要がある。

幹部はとも知らせている。

### 3) 中口の核兵器観

単純化した解釈を述べると

i) 中口は核兵器について無知であるか、

ii) 中口は核兵器をつくらせようとしているか、

iii) 中口はバグ運功手をどう受取っているか、

i) 核兵器の発生については政府からくり返し国民に説明されている。

ii) 人民の力が核兵器を使わせないという考え方に立っている

iii) 人民とは何か、世界中の人民の力を考えている

核兵器を作ることに全力をあげるとは一度も云っていない。経済建設が先

だし原煤も作るのと銅も作る併制の調査は盛に行われている。

脅かされて原煤を作ることを考えているとは思えない。

田中：軍縮が起きなければ中口は自力で持つと思う。中ソの話し合いにもよる。

これ 10年位先に存在する。overall planの中に入っていると思う。

佐久間：中口の核兵器の内蔵は2つの面

1) 中口が持つ気があるか、持たせたいのか、

2) 何故その問題が最近出て来ているか、

田中：ソ連側の戦略変更と関係がある。

坂田：最近突然中口が態度を表明したといふのではない。前から同じだ。

本川：中口の考えは簡単なスタイルではいれない。自信をもっている

田中：マクマ<sup>報</sup>リス 40隻(65兆) 16発ずつミサイル (each 0.6 Megaton)

A1, A2, A3. 始めの5隻 A1 (1200 mile)

6~18 A2 (1500 mile)

19~40 A3 (2500 mile)

将来は全部 A3 にする。

Tender & Supply ship & floating dock ?

Support ship ?

太平洋の展開のため West Coast Polaris Logistic ----- を作った

パナマにミカドの積荷を

Pearl harbor 訓練

が 基地 (Tender supply)

自衛隊の人員とはどこ位の

788 億 (陸上) の人員を ) 隊員に集めている

707 億 (航空) "

~500 (海上)

### 潜水艦問題

田中 : 潜水艦問題は原子力と比べると、どうなるか航空母艦の  
寄与を許すのも問題だ。

朝日 :

坂田 : 寧ろは現存のその背後に与える機会とするという意味だ。

田中 : どういう意味でその艦隊が問題だ。

佐久間 : 2nd attack の効果を象徴的に表わしたのが潜水艦問題だ。

→ 2nd attack を入口が持つ philosophy を問題にした。

佐久間 : 佐久間と来たわけだ。

坂田 : 日本が戦略的地位が高まることには矛盾だ。

佐久間 : これを許すと日本に核兵器を持つ最初の例になり、後は争って  
入ってくる可能性もある。

坂田 : 原子力潜水艦を中核とした戦略的制空のため 海洋が汚れる  
(海洋を規制する必要がある) 大気の汚染と同じ意味がある

佐久間 : 潜水艦を入れる代りに 陸上基地を撤収すれば良いことかどう。

坂田 : これは戦争の不可逆性の問題にあり global には良くない

朝日 : 潜水艦の位置は全部予定されている。

潜っている電波で連絡できる (長波) が難しい

どうしても基地がある。

5/8. 座長三宅

江口 世界史の中の日本.

秋本 昨の置かれた、客観的條件に対する主観的態度の問題

世界の平和は戦後の動きによって支えられている側面がある  
(後述のものより近代的なものの方が強まっている.)

昨人の政策に対する主観的態度をどう行かすか、が問題 — 自然科学との差  
(例えば「史学」中ソは延びた形勢に立っているが、自然科学についてはない)

現在解決すべき問題があるという面があるため、立場がある。

国際交流、異なる立場から見ることをつぎ合わせるから双方に役に立つ、どうしてその「ちがひ」が  
出てくるかを検討し、それを長期にわたって相互の理解を進める。

これは自然科学と異なると思われるが、これは量的な問題だと知れる。

1. 現在の世界史的條件の提示

どういふ政策をいふかを決める方が便利。 — マルクス唯物史観に近い <sup>(を前提とし)</sup> 立場から見ると

「平和」「人類」が問題になるのは最近。「平和運動」が「平和運動」として組織され、世界に  
支えられていることは画期的。国際と無関係に大衆運動があり、それは国際政治に  
政策に影響を与える。国際にと関係するに国際政治に影響を与えることは画期的である  
科学者の責任、自然科学者と社会科学者と問題の重点の区別が「ちがひ」によって異なる。

自然科学：学問が均等に「これ」を「これ」しなければならない。

社会：例えば毎年の問題は「実践的にどう解決するか」

1900. 世界分割が終った強国の争いが始まる。

1950. 人民の力で平和を守る可能性の生じた時期

国際連盟：基本的にはヨーロッパ的な諸国体制。

国際連合：社会主義国が加わったものとして入っている。

中ソが五大国として入っていることは画期的

原理的には国際連盟は比喩的に合理的な民主的な体制

これをどういふ技術にするか、絶えず大きな問題になっている。

### AAAの問題

AAの10国支持とは日中での意味が大いに異なる

現在の歴史の我々の考えは認識はよくわかっていて、それは対しAAは即物的に対処しようとする

例えば社会主義か資本主義かという問題の立場をなく、100の問題に對しどちらが利益があるかという問題の対応の仕方をしている。——ある意味では無原則。ある意味でこれなりに健全な

立場。そのことを日本の社会科学者は考えておまねねばならない。

### 中口

AAは原則的に何が正しいかという考えは少ない。

われわれの考えている理論を検証する場になつてくる。社会主義の例から見れば、経済の面からは非常に相みになる。民族主義、民族主義指導者を悪いものだと批判しない。

社会主義が主義ではなく国家権力であり、<sup>軍力であり</sup>主義だけを与えるものである。——1900年代の初めと30年代

中口の考え方。日中で原則や理論に拘泥する程には思っていない。

抽象的な原則としてどちらが正しいかという日中でよく考えられる考え方を交差し分け

ればならない。例えば、軍部口主義という略でも台湾に對する態度はflexible.

という主義から直接具現化政策がでてくるのではなく、中口は何をしようか

があるかというところから政策がでてくる。

### 日中の立場

日中の社会性の存在はどこから来るか。

史料に他民族と深刻な対立、まじり合いを経験しないので一応の警戒をなした。

19世紀以前の状況が現在まで可能。

19世紀以後の特殊存在時代。

不平等條約で押えられていた口は19世紀の条件では更に弱い口を押える形で

これを避けた。日中と清が朝鮮を押えた。

与えられた条件の中での対応の仕方は明治憲法以来、日清日露は優れた対応の

仕方も見える。という現実に対応する能力が現在失われて行くのは何故か。

学問が技術化するこへの警戒

5/8 午後 1.40

座長 末川

久野 職業倫理と市民倫理

科学とは、社会科学、人文科学 全てを含めた  
科学者としての責任と市民としての責任を 両方持つこと、  
どう関係させねばならぬかを論ずる

学者としての責任、 他者の権利に 干渉しないこと

事実として 分業が生じた。これを 両方に 両方持つことは 事実上 行われて  
いない。

科学の社会的責任が 最近 大々として。 科学者が 技術と 結びついて 社会  
の 生産, etc. で 社会 進歩 に 非常に 変革を 及ぼす力 を 持つ こと。  
国内的にも 国内的にも 進化した。

科学を 生かす 社会の 側面 <sup>で</sup> ~~近頃~~ 基本的には 同一倫理が 通用 している。  
日々 通用法を 変えなければ ならぬ こと。

科学が 社会 側面 一つの 巨大な 生産 手段 になっている。

それを使ふ 社会側には 大々な 対応が あり。 対応 策に 基づいた 手段  
として 使われる こと している。

科学に 課せられた 役割は 非常に 大々 になっている。

その大々から 生ずる 社会的 時を どの 上にして 科学者が 果たすか:

近代 科学が どういう 形で どういう 倫理 コーナー を 持つ ことか。

科学の

科学が disinterested な 後述の 積み重ね として 成立 している ところに  
近代 科学の 特色が あり。 後述は 事実を 取り出す ための リビニの 棒

という 形を 持つ こと。 ちやうど ちやうど 共通 性を 与える ことか。

初期 条件 と universal law と result.

これを 入れて 取り出す



都合としての計画性とこれ同様のあり方、その結果としての社会の形成、  
その社会の構造が科学にも反映している。

科学の function を決めるのは 社会の reproduction の style

科学者はこの社会の reprod. の style について何らかの <sup>機能</sup> 妥当づけをもち  
いるけれども <sup>機能</sup> 合点が ぼくやれない。

専門として分化している限り 全過程をその部内からでは把握できない。

(しかも科学の初めは この全過程によるから、これを喪失している限り  
思わざる結果に及ぶ。 — ナチの場合(心理学)

(局地的無意識的に作用した結果が ~~無~~計画的に全体社会に及んだ)

科学者の中から何らかの意味で 内部的価値観が 自己の一面性、制限性を自覚する  
必要がある。 その必要がないと思っている人に対しその自覚を促すのは 哲学  
と思想の役割であったが 現在の物理学は 科学に近づいてしまっている。

哲学的精神、思考の反省を 内に求める内題である。

自覚した人からとらねばならぬ位置は 総合科学である

<sup>総合科学</sup> その一つの側面は 隣り合っている領域の grouping, 序列化をやり

それから <sup>個別の</sup> 科学の使われる 様子を 総合科学の側面から 注ぎ出す

(例: 原子力の平和利用の <sup>条件</sup> ~~性~~) <sup>物理主義</sup> physicalism  
(従来の <sup>従来の</sup> 形に 総合化しているという危険があるとしても)

別の側面は <sup>社会的</sup> 社会科学の協力により 社会の全体的構造と運動  
を見通せる 共同が 組めるか。 その時に 結果の image が 見え  
る形に 共同が 組めるか。 それをしなければ 全体的見通しを でき  
ないか。 又 手は どのか。 どこから できるか。

精神分析と内省ロッドの 分岐は どの程度かを 自覚し、その分岐の上  
で 全体を見通せるように しなければ ならない。

科学の 市民社会の 内部での 社会的 主体を どうして 作り出し 行かせ、  
それは 科学者の 取能に 基く 主体が 形成される べき である

科学の内部に働いている理性は高いものではあるが、社会に働いている  
理性の低さを見た時、~~現実~~に働いている理性が社会の~~理性~~で人間の協同  
の仕方、互いの仕方、実存の様式はそれぞれにあることを認め、それを~~社会~~  
~~の~~変改することをしなければ、科学の内部の理性の modification  
ではできない。

### 坂田

科学者の社会的自覚がどう形成され どう組織されたか。

旧来の問題。

第二次大戦後の特徴

政府と結びついて来た (政府の力を入れる)

階層としての科学者

科学の研究の規模の拡大

及フアズム Academic freedom.

規模の拡大による、科学を動かす主体 (政府) の科学政策と無関係に

科学が自身を進めることはできなくなった。

ソ連の原子科学者 — 科学を進める中での政治的自覚

フランスの "

民科

学研会

学研会 伝 文 字 系

周辺科学者の support → 文

学研計画

佐久間 計介

口民運動に注目する必要がある

口民運動としての原水禁運動

原水協が核廃止を停止している

運動の進め方の内証

- 1) 一方で AB を奪取した... という口民の強... が 生 みの 形 で 生かされる... 特定の団体の幹部等により組織の強化の道具にされている。
- 2) 科学の敵を明かにせよという原則的な <sup>科学の</sup> 敵が 教条的 かつ 外的に 出されている。

運動の内証の内証

1954 ~ 原水協の交渉交渉署名運動

主として 実験禁止 という形で進められた。

核兵器強化抑制に目を注ぐことが少なかった。

科学者はどういう役割が出来るか

三宅 科学の口民協力が 正確理解に必要。 IGY, これは non-governmental 系 ICSU がつたが、各よる運動は口民の内に 誘導せざるを得ない。 UNESCO の 57 も 再認識する必要がある。

久野 科学の偏在が 障害になる。 予算、言語等の内証で UNESCO が核廃止は 偏在が 是正されるのではないが、 UNESCO が「科学」という立場を 世界の「科学」に 対するものとする 云々の方は まづいのではないか。

朝比 朝比 UNESCO は 政府の 発言者 について 疑問に 執着しているが 政府は しない。

市民の倫理の語で、市民の論理で 例えは 原水禁の語で、背後にある global なもの 来び 行ある。 それは どうすれば よいか。

久野 市民の参加は現状では①アナーキーで、集団的主役としての動きがない。  
市民の組織をどうまとめるかが問題である。科学者が指導原理を  
押し付ける形ではなく、耳をたたく fact を知らせ ~~市民の組織の中に~~  
察知的な知識、実践的主役のもっている意思に即した知識を作らねば  
ならない。



抑止政策を恒久化する動きを「抑止すべき」ということを言っており、  
必要がある。その一つの手段として日中関係に抑止力を絶対持たせない  
ということである。

これは夏でも繰り返される「ゴキウ」である。これを繰り返さなければならぬ。  
キューバは核戦争に存在する一歩手前の最初の事例だ。

幸い「理性的判断」で抑えられたが、理性的判断を誤ったときに  
どうなるか。昨年の声明の通りになる。

理性的判断で収めた理由は、抑止戦略で収まるのではない。

（いうまでもなく）

キューバ以後、その危険性は増大した。

日中の役割が大きい。その背景には人民の力があった。

瞬時的判断は許さず、日中の細い線も守る。その細い線も  
人民の力で補強されている。

歴史を動かす理性の力が働いた。

（人民も代表している）

キューバは細い線であることが危険であることが前提。

ラオスの理性——当局者以外の理性が入ったことは重要なことである。

localな戦争とglobalな問題の区別がなくなった。

キューバ問題

昨年の夏2で警告したが、危機が来た。これは「~~政府の判断~~で避けられたか？」

これに危機は至っていない。少数の人の判断で避けられる形は危険である。

ラオスの役割——歴史を動かす理性の力が働いた。

核封じ込め戦略は日中の細い線にも関わっている。

日中をそのまゝ受け入れるのではなく、もっとまじめに考えよう。

歴史を創る場合の当事者の役割

要するに、<sup>人の</sup>協力は実践という目標を伴わずにやるとアドオンにする  
という点に当たった人が、それだけの合意で種になってほしい。

News Letter: Communicationの内容 → 継続性の保証

5/9. 9:30. Communique 討論

小川: 読み上げる

朝比: ~~全部~~ 全体的に見てどう

三宅: (1) (5) をつけた方がいいのではあるか

久野: 亦一冊からまとまって一冊の形にでもするよりは形なども整えた方がいい。